小平市防災マップ

Emergency Map of Kodaira City

小平市防災地図

고다이라시 방재 지도

地震対策	○地震 その時10のポイント ○避難の流れ ○避難・帰宅困難の対策 ○地震発生時の行動 ○地震からわが家を守る
火災対策	○初期消火の三原則 ○防火のポイント ○住宅用火災警報器
風水害対策	○安全に避難するために ○小平市情報の伝達経路 ○土砂から身を守るために ○家の内外の備え ○気象情報の種類と特徴
総合対策	○特別警報 ○非常時に備えた総合対策

家族等の安否の確認は？

災害用伝言ダイヤル 171

「171」をダイヤル。利用ガイダンスに従って伝言の録音・再生ができます。
※被災地の方の自宅などの電話番号を市外局番からダイヤル

電話で録音

171をダイヤル → 1を入力（※固定電話や公衆電話は⑨です。） → 被災地の方の電話番号の番号を入力（携帯電話等の番号でもご利用いただけます。） → 9 終了 / メッセージを録音 / 続けて1を入力（※タイヤルの方法はそのままお待ちください）

電話で確認

171をダイヤル → 2を入力 → 被災地の方の電話番号の番号を入力（携帯電話等の番号でもご利用いただけます。） → 3 再生中のメッセージの録音 / 繰り返しの再生は8 / 次の伝言の再生は9 / 1 ご伝言の再生開始 （※タイヤルの方法はそのままお待ちください）

災害用伝言板

携帯電話から、ご利用の通信会社に「伝言板」を利用することができます。

伝言の登録

災害用伝言板へのアクセス → 伝言の登録 → 登録

伝言の確認

災害用伝言板へのアクセス → 確認したい人の携帯電話番号の入力 → 確認

※詳細については、ご利用の通信会社にご確認ください。

発　行：小平市総務部防災危機管理課
〒187-8701　小平市小川町2-1333
TEL：042-346-9519　FAX：042-346-9513
E-mail：bosaikikikanri@city.kodaira.lg.jp
発行年月：令和７年４月発行

地震対策　地震 その時10のポイント

地震時の行動

1 地震だ！ まず身の安全

揺れを感じたら、緊急地震速報を受けた時は、身の安全を最優先に行動する。

丈夫なテーブルの下や、物が落ちてこない「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れがおさまるまで様子を見る。

地震直後の行動

2 落ちついて火の元確認 初期消火

火を使っている時は、揺れがおさまってから、あわてずに火の始末をする。出火した時は、落ちついて消火する。

3 あわてた行動 けがのもと

屋内で転倒・落下した家具類やガラスの破片などに注意する。瓦、窓ガラス、看板などが落ちてくるので外に飛び出さない。

4 窓や戸を開け 出口を確保

揺れがおさまった時に、避難ができるよう出口を確保する。

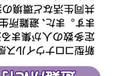
5 門や塀には近寄らない

屋外で揺れを感じたら、ブロック塀などには近寄らない。

地震後の行動

6 確かめ合おう わが家の安全 隣の安否

わが家の安全を確認後、近隣の安否や出火の有無をお互いに確認し合う。



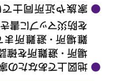
7 協力し合って 消火・救出・応急救護

近隣で火災を発見した場合は、街頭消火器などにより、協力しあって消火を行い延焼を防ぐ。

倒壊家屋や転倒家具などの下敷きになった人を近隣で協力し、救出・救護する。

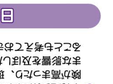
8 正しい情報 確かな行動

行政、放送局、鉄道会社などから発信される正しい情報を得る。



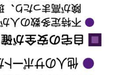
9 避難の前に安全確認 電気・ガス

避難が必要な時には、復電時の電気機器のショートなど、通電火災が発生する可能性やガス漏れの発生を防ぐため、ブレーカーを切り、ガスの元栓を締めてから避難する。



10 火災や津波 確かな避難

地域に大規模な火災の危険がせまり、身の危険を感じた方声を掛け合い、一時集合場所や避難場所に避難する。



地震対策　避難の流れ

避難所に着いたら…

大きな地震が発生した場合、余震等による二次被害を防止するため、避難所（建物）に直接避難（入室）することはできません。施設の安全確認が終了するまでは、近くの避難場所（校庭等）で待機してください。避難所への入室は、避難所の運営スタッフの誘導に従ってください。

避難所運営マニュアル

避難所は、避難所を利用する方々が中心となって運営します。そのため、市では、市立小・中学校及び小平元気村おがわ東の各地区において、地域住民や学校関係者の方々と協力しながら、避難所の運営手順等に関するマニュアルを作成しています。マニュアル作成等に参加いただける場合は、防災危機管理課までお問合せください。なお、各地区で作成されたマニュアルは市ホームページに掲載しています。

地震対策　地震発生時の行動

家にいる場合

■ **料理中**
- 大きな揺れの場合は消火よりも身の安全を最優先する。
- 揺れがおさまってから、あわてずに火を消す。

■ **寝ているとき**
- ふとんやまくらで頭を守り、家具が倒れてこないところに伏せる。

■ **お風呂やトイレでは**
- ドアや窓を開けて出口を確保する。
- 風呂の火を消す。

■ **集合住宅では**
- ドアを開けて逃げ道を確保する。
- エレベーターは使わない。

■ **慌てて外に逃げ出さない**
- 外ではガラスや瓦が落ちてくることがある。
- 冷静に状況を判断する。

1 に安全 2 に消火

外出している場合

■ **住宅街では**
- ブロック塀や石壁、門柱など、倒壊の危険性のあるものから離れる。
- 切れて垂れ下がっている電線には絶対触らない。
- 屋根瓦やガラス、看板などの落下物に注意する。

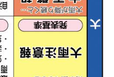
■ **繁華街では**
- 手荷物などで頭を守り、広場などに逃げる。
- 建物や塀、電柱、自動販売機などから離れる。
- ガラスや看板、ネオンサインなどの落下物に注意する。

転倒物、落下物に注意！

■ **人が大勢いる施設では**
- 慌てて出口に走り出さないで、係員の指示にしたがって落ち着いて行動する。

■ **エレベーターでは**
- ただちに各階のボタンをすべて押し、停止した階で降りる。
- 停電などで閉じこめられた場合は非常ボタンを押し続け、外部に助けを求める。

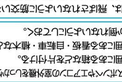
■ **車を運転している場合**
- ハンドルをしっかり握って徐々にスピードを落とし、道路の左側に停車する。
- 揺れがおさまるまで車内でカーラジオ等により情報の確認をする。
- 車を離れる場合はエンジンを止め、ドアをロックせず、キーをつけたままにする。
- 高速道路では、以下の点にも留意する。
  - ゆっくりと減速し、左路肩に停車してエンジンを止める。
  - 慌ててスピードを落とさずに、ハザードランプを点灯させてまわりの車に注意を促す。



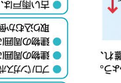
■ **鉄道・バス乗車中の場合**
- つり革や手すりにしっかりとつかまる。

家の中の安全対策

- 重い物を下に、軽い物を上に収納する。
- 寝室や子ども部屋に倒れやすい家具を置かない。
- じゅうたんや畳の上に倒れやすい家具を置かない。
- 万一家具が倒れても出入り口が開くようにする。
- 家具の下に転倒防止用のシートを敷き、壁にもたれ気味にする。
- 背の高い家具はL字金具などで固定する。



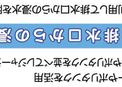
- 窓ガラスや食器棚のガラスに飛散防止用フィルムをはる。



- 火元に消火器を設置する。
- テレビやパソコンは耐震粘着マットなどで固定する。
- ストーブは対震消火機能付きにする。
- カーテンは防火処理を施したものにする。
- 棚の扉に留め具をつける。
- 家具の上に物を置かない。

家の外の安全対策

- 屋根瓦にひび割れやずれがあれば補修・補強する。
- 屋根を軽量化する。
- テレビアンテナをしっかり固定する。
- ベランダの落ちやすい場所に重い物を置かない。
- ブロック塀の耐震性をチェックし、必要に応じて補修・補強・改修する。
- ブロック塀ではなく生け垣にする。



- 基礎を補修・補強する。
- 筋交いを入れる。
- エアコンの室外機の安定性を点検、つり下げ式の場合は固定金具にさびやかたつきがあれば補修・補強する。
- プロパンガスは鎖でしっかりと固定する。

わが家の危険度チェック

ひとつでも気になる項目があれば耐震診断を受けましょう。また、必要に応じて家屋の耐震改修などを行いましょう。

□ **建築年**
昭和56年（1981年）5月以前の耐震基準で建てられた住宅は、耐震性が不足している可能性があります。

□ **過去の災害履歴**
過去に地震・風水害・火災などの災害に見舞われたことのある住宅は、外見ではわからない損傷を受けている可能性があります。

□ **地盤**
軟弱な地盤では、地震の揺れが大きくなります。埋め立て地、低湿地、造成地で盛り土した場所、液状化の可能性がある砂質地盤では注意が必要です。

□ **基礎**
木造住宅の場合、しっかりと建物と一体化している鉄筋コンクリート造りの基礎が望ましです。

□ **壁**
木造住宅では、壁の量が多い程安全だと言われています。ある一面がほとんど窓になっているなど、壁のバランスが悪い住宅は要注意です。

□ **建築の形**
平面的にも立体的にも、凹凸の少ない単純な形の住宅は比較的安全です。逆に凹凸の多い複雑な住宅は要注意です。

□ **老朽化**
基礎の腐食やシロアリによる被害は急務。特に台所や浴室などの水回りをチェックします。また、屋根の棟や軒先が波打っている住宅、建具の建て付けが悪い住宅は老朽化している可能性があります。

総合対策　非常時に備えた総合対策

家族での話し合いと準備

■ **いざというときのために、定期的に家族で防災について話し合ったり、準備したりする。**
- 災害時の連絡方法や複数の避難場所を確認する。
- 非常時の役割分担を一人ひとり決める。
- 自宅（建物・家の中）の危険箇所をチェックする。
- 自宅から避難場所まで、複数のルートで実際に歩いてみる。
- 東京マイ・タイムラインを利用してマイ・タイムラインを作成し、風水害に備えておく。
- 食料やラジオの電池等の備蓄品を点検しておく。
- 避難時の持出品を日頃から準備し、すぐに持ち出せるようにしておく。

「避難者カード」の事前準備

避難所への入所や在宅のまま避難所のサービス（物資の提供等）の利用を希望する場合には、避難所に避難者カードを提出する必要があります。事前に記入しておき、避難時の持出品として準備しましょう。（右記の二次元コードから避難者カードをダウンロードできます。）

積極的に自主防災活動を

- 地域内の防災環境を確認しておく。
- 日頃から地域の人との交流を密にする。災害時には、初期消火、避難誘導、救出・救護、情報収集・伝達、避難所の管理・運営などに積極的に取り組む。
- **自主防災組織を作りましょう**
  "自分たちのまちは自分たちで守る"という意識のもと、大地震が発生した場合、被害を最小限に食い止めるため、日頃から地域の皆さんがお互いに協力し合い、自主的な防災活動を行うことが必要です。市では、防災コミュニティの構築を推進していくため、令和3年度より10世帯以上から自主防災組織の登録ができるようになりました。近所の皆さんで話し合い、地域の自主防災組織を作りましょう。
  また、災害時に円滑な活動ができるよう、定期的に訓練を行い、積極的に訓練に参加しましょう。

災害時にペットを守るために

- **災害時に備えて日頃から対策を**
  ペットのしつけ、予防注射・ワクチン等の接種、備蓄品・飼養用具の用意、預け先の確保などの準備をしてください。

ペットの防災用品
●フード（餌）&水　●常備薬、療法食　●首輪、ハーネス&リード（丈夫なものがよい）　●トイレ用品（トイレシート、猫砂、新聞紙等）　●クレート、キャリーバッグ、ケージ（ハードタイプの積み重ねられるものがよい、ビニールシート等風雨がしのげるものであるとよい）　●食器　●健康の記録やペットの写真　●その他必要なもの（おもちゃ等）

- **ペットとの同行避難**
  ①避難所へ避難する際は、ペットは同行避難が原則となります。
  ②必ずケレート等に入れて避難してください。
  ③飼い主の居住スペースとペットのスペースは別の場所になります。ペットを入れたクレート等は避難所の所定の場所に設置してください。
  ④ペットの管理（餌や排泄物の処理等）は飼い主が責任を持って行ってください。避難所での飼養ルールを守り、他の避難者への配慮をお願いします。

スマートフォン用アプリケーション「小平市防災マップ」

電話回線の乱れや通信環境に関係なく使用できる、スマートフォン用アプリケーション「小平市防災マップ」を配信しています。
「小平市防災マップ」の情報などを端末上に表示させるもので、アプリを事前にダウンロードすることにより、インターネット通信環境がない状態でも、最寄りの避難所や避難場所、浸水履歴図・浸水予想区域図などを確認することができます。

【ダウンロード方法】
App Store、Google Play から無料でダウンロードできます。
（ダウンロード時の通信費を除く。）
（iPhone 用）（Android 端末用）

防災行政無線自動音声応答サービス

防災行政無線（屋外スピーカー）で放送した内容を、電話で確認することができる自動音声応答サービスを下記専用ダイヤルで行っています。
専用ダイヤル：042-341-0793

防災・防犯緊急メールマガジン

災害時における避難情報等の緊急のお知らせを配信します。配信を希望される方は、右記の二次元バーコードを読み取り、空メールを送信することで登録手続きをすることができます。あらかじめ次のドメインからメールを受信できるようにしてください。
@mailmag.city.kodaira.tokyo.jp

小平市公式X（旧ツイッター）・小平市公式 LINE

防災・防犯情報などを配信します。右記の二次元バーコードを読み込んで登録してください。LINEは、友だち追加の際に、受信設定で「防災・防犯」を選択してください。
X（旧ツイッター）　LINE

災害時情報提供アプリ「Safety tips」

観光庁監修のもと開発された、多言語で日本国内における緊急地震速報や津波警報、噴火速報、気象特別警報、熱中症情報、国民保護情報等を通知する無料アプリで、災害時に役立つ様々な機能があります。
（iPhone 用）（Android 端末用）
※ iPhone、App Store は米国およびその国で登録された Apple Inc. の商標です。
※ Android、Google Play は Google LLC の商標です。

もしもに備えて
非常食
保存水
防災用品
代理購入・生活支援
TOHSHO
トーショー総合企画株式会社
〒187-0004 東京都小平市天神町1-10-10
TEL. 042-344-8811 FAX. 042-347-5777
H-2

トーショー交通
●クレジットカードOK！ ●ポイントが貯まる！（Tosocoカード）
通院サポート
マタニティサポート
生活サポート
Tosoco
タクシーの配車・ご予約は
0120-528-963
H-2

TOKYO GAS LIFEVAL
ガス機器修理　電気のご契約　水まわりのご相談
おうちの困ったご相談ください
東京ガスライフバル北多摩
東京ガスマライフバリュー株式会社
〒187-0042 小平市仲町445-1
0570-026-919
電話受付時間　月～土 9:00～19:00　日・祝日 9:00～17:30
G-3

YURAKU CHOCOLATE SHOP
有限会社ユラク
東京工場直売
LINEまたは予約時でお得なクーポン・期間限定商品のお知らせを送信！
「ブラックサンダー」でおなじみの有楽製菓の東京直営です。人気No.1のブラックスムチョコレートや地域限定のブラックサンダー、期間限定商品も取り揃えております。大・金箔で生チョコ味パレを販売しております。（要予約）
〒187-0032小平市小川町1-94　TEL:042-341-1813
営業時間：9:00～17:00　休日：お盆・年末年始
C-2

※協力：武蔵野美術大学（小平市いきいき協働事業により作成）
（この地図はユニバーサルデザインに配慮して作成しています。）

7

風水害の前兆を知ろう

風水害の前兆を知ろう

- 雨雲が近づいてきたとき、すぐに動ける状況にしておくこと。
- 雨雲接近の情報は「防災情報メール」や「気象情報」を活用して、早めに安全な場所に避難しておくこと。
- 雨雨接近の情報は「防災情報メール」や「気象情報」を活用して、早めに安全な場所に避難しておくこと。
- 雨雨接近の情報は「防災情報メール」や「気象情報」を活用して、早めに安全な場所に避難しておくこと。

風水害の前兆を知ろう

- 雨雲接近の情報は「防災情報メール」や「気象情報」を活用して、早めに安全な場所に避難しておくこと。
- 雨雨接近の情報は「防災情報メール」や「気象情報」を活用して、早めに安全な場所に避難しておくこと。
- 雨雨接近の情報は「防災情報メール」や「気象情報」を活用して、早めに安全な場所に避難しておくこと。

風水害対策　インターネットによる情報収集

水害

- 水深50cmを上回ると人間は歩けなくなる。
- 水の流れが速い場所は歩けない。
- 水の流れが速い場所は歩けない。
- 市街地の浸水は、川から水溢れ出て、地形の影響で広範囲に広がる。
- 市街地の浸水は、川から水溢れ出て、地形の影響で広範囲に広がる。
- 市街地の浸水は、川から水溢れ出て、地形の影響で広範囲に広がる。

都市型水害

- 地下鉄駅出入口や地下街は、一時的に流れ込み、地下施設の浸水は10cm程度の段差。
- 地下鉄駅出入口や地下街は、一時的に流れ込み、地下施設の浸水は10cm程度の段差。
- 地下鉄駅出入口や地下街は、一時的に流れ込み、地下施設の浸水は10cm程度の段差。

家庭とあるもの を利用して浸水防止

- 風呂水を利用して、ごみ袋を2重にして中に水分吸収剤を詰め、ダンボール箱に入れる浸水防止用品。
- 風呂水を利用して、ごみ袋を2重にして中に水分吸収剤を詰め、ダンボール箱に入れる浸水防止用品。
- 風呂水を利用して、ごみ袋を2重にして中に水分吸収剤を詰め、ダンボール箱に入れる浸水防止用品。

浸水への事前対策を

- 1階部屋（mm）
- 10以上～20以下　やや強い雨
- 20以上～30以下　強い雨
- 30以上～50以下　激しい雨
- 50以上～80以下　非常に激しい雨
- 80以上～　猛烈な雨

■ 浸水の深さと被害

- 地下一階部屋（家具・電気製品）
- 浸水の深さ（cm）
- 1～15　一部の家具が使えなくなる。
- 15～30　家具・電気製品が使えなくなる。
- 30～50　家具・電気製品が使えなくなる。
- 50～100　家具・電気製品が使えなくなる。
- 100～　家具・電気製品が使えなくなる。

■ 浸水の深さと被害

- 平均風速（m/s）
- 10以上～15未満　やや強い風
- 15以上～20未満　強い風
- 20以上～25未満　非常に強い風
- 25以上～30未満　猛烈な風
- 30以上～　暴風

■ 強い風と被害

- 雨量（mm）
- 20以上～30未満　やや強い雨
- 30以上～50未満　強い雨
- 50以上～80未満　非常に強い雨
- 80以上～　猛烈な雨

■ 雨の強さと被害

総合対策　特別警報

特別警報が発表されたら

- 命令・指示に従って、安全な場所に避難する。
- 命令・指示に従って、安全な場所に避難する。
- 命令・指示に従って、安全な場所に避難する。

特別警報

- 特別警報は、これまでにない厳重な警戒を呼びかける情報です。
- 特別警報は、これまでにない厳重な警戒を呼びかける情報です。
- 特別警報は、これまでにない厳重な警戒を呼びかける情報です。

特別警報

- 特別警報は、これまでにない厳重な警戒を呼びかける情報です。
- 特別警報は、これまでにない厳重な警戒を呼びかける情報です。
- 特別警報は、これまでにない厳重な警戒を呼びかける情報です。

総合対策　非常時に備えた総合対策

家族での話し合いと準備

■ **いざというときのために、定期的に家族で防災について話し合ったり、準備したりする。**
- 災害時の連絡方法や複数の避難場所を確認する。
- 非常時の役割分担を一人ひとり決める。
- 自宅（建物・家の中）の危険箇所をチェックする。
- 自宅から避難場所まで、複数のルートで実際に歩いてみる。
- 東京マイ・タイムラインを利用してマイ・タイムラインを作成し、風水害に備えておく。
- 食料やラジオの電池等の備蓄品を点検しておく。
- 避難時の持出品を日頃から準備し、すぐに持ち出せるようにしておく。

「避難者カード」の事前準備

避難所への入所や在宅のまま避難所のサービス（物資の提供等）の利用を希望する場合には、避難所に避難者カードを提出する必要があります。事前に記入しておき、避難時の持出品として準備しましょう。（右記の二次元コードから避難者カードをダウンロードできます。）

積極的に自主防災活動を

- 地域内の防災環境を確認しておく。
- 日頃から地域の人との交流を密にする。災害時には、初期消火、避難誘導、救出・救護、情報収集・伝達、避難所の管理・運営などに積極的に取り組む。
- **自主防災組織を作りましょう**
  "自分たちのまちは自分たちで守る"という意識のもと、大地震が発生した場合、被害を最小限に食い止めるため、日頃から地域の皆さんがお互いに協力し合い、自主的な防災活動を行うことが必要です。市では、防災コミュニティの構築を推進していくため、令和3年度より10世帯以上から自主防災組織の登録ができるようになりました。近所の皆さんで話し合い、地域の自主防災組織を作りましょう。
  また、災害時に円滑な活動ができるよう、定期的に訓練を行い、積極的に訓練に参加しましょう。

災害時にペットを守るために

- **災害時に備えて日頃から対策を**
  ペットのしつけ、予防注射・ワクチン等の接種、備蓄品・飼養用具の用意、預け先の確保などの準備をしてください。

ペットの防災用品
●フード（餌）&水　●常備薬、療法食　●首輪、ハーネス&リード（丈夫なものがよい）　●トイレ用品（トイレシート、猫砂、新聞紙等）　●クレート、キャリーバッグ、ケージ（ハードタイプの積み重ねられるものがよい、ビニールシート等風雨がしのげるものであるとよい）　●食器　●健康の記録やペットの写真　●その他必要なもの（おもちゃ等）

- **ペットとの同行避難**
  ①避難所へ避難する際は、ペットは同行避難が原則となります。
  ②必ずケレート等に入れて避難してください。
  ③飼い主の居住スペースとペットのスペースは別の場所になります。ペットを入れたクレート等は避難所の所定の場所に設置してください。
  ④ペットの管理（餌や排泄物の処理等）は飼い主が責任を持って行ってください。避難所での飼養ルールを守り、他の避難者への配慮をお願いします。

風水害対策　家の内外の備え

家の内外の備え

- 雨雨接近の情報は「防災情報メール」や「気象情報」を活用して、早めに安全な場所に避難しておくこと。
- 雨雨接近の情報は「防災情報メール」や「気象情報」を活用して、早めに安全な場所に避難しておくこと。
- 雨雨接近の情報は「防災情報メール」や「気象情報」を活用して、早めに安全な場所に避難しておくこと。

家の内外の備え

- 雨雨接近の情報は「防災情報メール」や「気象情報」を活用して、早めに安全な場所に避難しておくこと。
- 雨雨接近の情報は「防災情報メール」や「気象情報」を活用して、早めに安全な場所に避難しておくこと。
- 雨雨接近の情報は「防災情報メール」や「気象情報」を活用して、早めに安全な場所に避難しておくこと。

家の内外の備え

- 雨雨接近の情報は「防災情報メール」や「気象情報」を活用して、早めに安全な場所に避難しておくこと。
- 雨雨接近の情報は「防災情報メール」や「気象情報」を活用して、早めに安全な場所に避難しておくこと。
- 雨雨接近の情報は「防災情報メール」や「気象情報」を活用して、早めに安全な場所に避難しておくこと。

風水害対策　気象情報の種類と特徴

集中豪雨

- 過去に経験したことのない雨量が予想されます。
- 過去に経験したことのない雨量が予想されます。
- 過去に経験したことのない雨量が予想されます。

雨

- 雨雨接近の情報は「防災情報メール」や「気象情報」を活用して、早めに安全な場所に避難しておくこと。
- 雨雨接近の情報は「防災情報メール」や「気象情報」を活用して、早めに安全な場所に避難しておくこと。
- 雨雨接近の情報は「防災情報メール」や「気象情報」を活用して、早めに安全な場所に避難しておくこと。

雨

- 雨雨接近の情報は「防災情報メール」や「気象情報」を活用して、早めに安全な場所に避難しておくこと。
- 雨雨接近の情報は「防災情報メール」や「気象情報」を活用して、早めに安全な場所に避難しておくこと。
- 雨雨接近の情報は「防災情報メール」や「気象情報」を活用して、早めに安全な場所に避難しておくこと。

台風

- 台風は、風雨を伴うため、強い雨が降ります。
- 台風は、風雨を伴うため、強い雨が降ります。
- 台風は、風雨を伴うため、強い雨が降ります。

■ 台風と被害

- 風速（m/s）
- 15m/s以上の中型　強い台風
- 25m/s以上の大型　非常に強い台風
- 35m/s以上の特大型　猛烈な台風

■ 台風の強さと被害

火災対策　初期消火の三原則

初期消火の三原則

- 火災を見つけたら、大きな声で周囲に知らせる。
- 火災を見つけたら、大きな声で周囲に知らせる。
- 火災を見つけたら、大きな声で周囲に知らせる。

初期消火の三原則

- 火災を見つけたら、大きな声で周囲に知らせる。
- 火災を見つけたら、大きな声で周囲に知らせる。
- 火災を見つけたら、大きな声で周囲に知らせる。

火災対策　住宅用火災警報器

住宅用火災警報器のタイプ

- 住宅用火災警報器を住宅に設置することが義務づけられる。
- 住宅用火災警報器を住宅に設置することが義務づけられる。
- 住宅用火災警報器を住宅に設置することが義務づけられる。

住宅用火災警報器

- 煙感知式
  煙を感知する。火災に発展する前の段階で火を感知する。
- 熱感知式
  熱を感知する。火災の初期段階で火を感知する。

住宅用火災警報器のタイプ

- 煙感知式
  煙を感知する。火災に発展する前の段階で火を感知する。
- 熱感知式
  熱を感知する。火災の初期段階で火を感知する。

設置する場所

- ① 寝室
  就寝中に火災を早期発見し、逃げ遅れを防ぐ。
- ② 階段
  火災発生時に煙が上昇するため、逃げ遅れを防ぐ。
- ③ 廊下
  火災発生時に煙が上昇するため、逃げ遅れを防ぐ。

設置する場所

- ① 寝室
  就寝中に火災を早期発見し、逃げ遅れを防ぐ。
- ② 階段
  火災発生時に煙が上昇するため、逃げ遅れを防ぐ。
- ③ 廊下
  火災発生時に煙が上昇するため、逃げ遅れを防ぐ。

火災対策　防火のポイント

コンロ

- 油料理のときは火の元を離れない。
- 油料理のときは火の元を離れない。
- 油料理のときは火の元を離れない。

ストーブ

- 燃焼中は、ストーブ本体の温度が高くなるため、ストーブ本体の温度が高くなるため、ストーブ本体の温度が高くなるため、
- 燃焼中は、ストーブ本体の温度が高くなるため、ストーブ本体の温度が高くなるため、ストーブ本体の温度が高くなるため、
- 燃焼中は、ストーブ本体の温度が高くなるため、ストーブ本体の温度が高くなるため、ストーブ本体の温度が高くなるため、

故火

- 家の周囲に燃えやすいものを置かない。
- 家の周囲に燃えやすいものを置かない。
- 家の周囲に燃えやすいものを置かない。

日頃からの確認を

- 地図上でまわるルートを確認しておくこと。
- 地図上でまわるルートを確認しておくこと。
- 地図上でまわるルートを確認しておくこと。

避難所に行けない場合

- 自宅が安全であれば、自宅で生活する。
- 自宅が安全であれば、自宅で生活する。
- 自宅が安全であれば、自宅で生活する。

避難所に行けない場合

- 自宅が安全であれば、自宅で生活する。
- 自宅が安全であれば、自宅で生活する。
- 自宅が安全であれば、自宅で生活する。

持出品・備蓄品の準備

- 家族全員の分。
- 家族全員の分。
- 家族全員の分。

配線

- 壁に定期的に点検する。
- 壁に定期的に点検する。
- 壁に定期的に点検する。

配線

- 壁に定期的に点検する。
- 壁に定期的に点検する。
- 壁に定期的に点検する。

火災対策

- 火災が起きたら、119番に通報する。
- 火災が起きたら、119番に通報する。
- 火災が起きたら、119番に通報する。

火災対策

- 火災が起きたら、119番に通報する。
- 火災が起きたら、119番に通報する。
- 火災が起きたら、119番に通報する。

火災対策　初期消火の三原則

火災対策

- 住宅用火災警報器を住宅に設置することが義務づけられる。
- 住宅用火災警報器を住宅に設置することが義務づけられる。
- 住宅用火災警報器を住宅に設置することが義務づけられる。

火災対策

- 住宅用火災警報器を住宅に設置することが義務づけられる。
- 住宅用火災警報器を住宅に設置することが義務づけられる。
- 住宅用火災警報器を住宅に設置することが義務づけられる。

住宅用火災警報器

- 煙感知式
  煙を感知する。火災に発展する前の段階で火を感知する。
- 熱感知式
  熱を感知する。火災の初期段階で火を感知する。

住宅用火災警報器のタイプ

- 煙感知式
  煙を感知する。火災に発展する前の段階で火を感知する。
- 熱感知式
  熱を感知する。火災の初期段階で火を感知する。

設置する場所

- ① 寝室
  就寝中に火災を早期発見し、逃げ遅れを防ぐ。
- ② 階段
  火災発生時に煙が上昇するため、逃げ遅れを防ぐ。
- ③ 廊下
  火災発生時に煙が上昇するため、逃げ遅れを防ぐ。

設置する場所

- ① 寝室
  就寝中に火災を早期発見し、逃げ遅れを防ぐ。
- ② 階段
  火災発生時に煙が上昇するため、逃げ遅れを防ぐ。
- ③ 廊下
  火災発生時に煙が上昇するため、逃げ遅れを防ぐ。

火災対策　防火のポイント

コンロ

- 油料理のときは火の元を離れない。
- 油料理のときは火の元を離れない。
- 油料理のときは火の元を離れない。

ストーブ

- 燃焼中は、ストーブ本体の温度が高くなるため、ストーブ本体の温度が高くなるため、ストーブ本体の温度が高くなるため、
- 燃焼中は、ストーブ本体の温度が高くなるため、ストーブ本体の温度が高くなるため、ストーブ本体の温度が高くなるため、
- 燃焼中は、ストーブ本体の温度が高くなるため、ストーブ本体の温度が高くなるため、ストーブ本体の温度が高くなるため、

故火

- 家の周囲に燃えやすいものを置かない。
- 家の周囲に燃えやすいものを置かない。
- 家の周囲に燃えやすいものを置かない。

日頃からの確認を

- 地図上でまわるルートを確認しておくこと。
- 地図上でまわるルートを確認しておくこと。
- 地図上でまわるルートを確認しておくこと。

避難所に行けない場合

- 自宅が安全であれば、自宅で生活する。
- 自宅が安全であれば、自宅で生活する。
- 自宅が安全であれば、自宅で生活する。

避難所に行けない場合

- 自宅が安全であれば、自宅で生活する。
- 自宅が安全であれば、自宅で生活する。
- 自宅が安全であれば、自宅で生活する。

持出品・備蓄品の準備

- 家族全員の分。
- 家族全員の分。
- 家族全員の分。

配線

- 壁に定期的に点検する。
- 壁に定期的に点検する。
- 壁に定期的に点検する。

配線

- 壁に定期的に点検する。
- 壁に定期的に点検する。
- 壁に定期的に点検する。

火災対策

- 火災が起きたら、119番に通報する。
- 火災が起きたら、119番に通報する。
- 火災が起きたら、119番に通報する。

火災対策

- 火災が起きたら、119番に通報する。
- 火災が起きたら、119番に通報する。
- 火災が起きたら、119番に通報する。